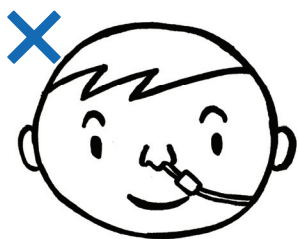


テープを貼る位置って どこがいいの？

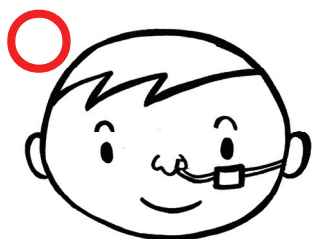
お顔やお口の周囲または口腔に過敏のあるお子さんは、経鼻胃管や経口胃管などの栄養チューブの固定のためにお顔に貼るテープの位置の工夫が必要です。

唇は過敏性が高く、しかし本来とても伸びやすい場所です。乳首をくわえたり、食べ物を取り込んだり、大きなお口をあけて笑ったり泣いたりするために、唇とその周囲は伸びやすくしておくことが大切です。できるだけ口唇にかかる場所は避けてテープを貼りましょう。

経鼻胃管の場合は、鼻翼に固定した後、頬やおでこ等、なるべく嫌がらない場所に貼ります。テープかぶれの予防のためには、貼り替えるときに、貼る場所を少しずつ変えましょう。



お口の周囲に貼るのは
避けましょう



鼻翼に固定した後、頬や
おでこに貼りましょう

イラスト：うえだようこ
デザイン：たかいあやの

東京療育ネットワーク

摂食指導ワーキンググループ参加施設

- 島田療育センター
- 島田療育センターはちおうじ
- 東京小児療育病院
- 西多摩療育支援センター
- 東京都立小児総合医療センター
- 東京都立多摩療育園
- 東京都立東大和療育センター
- 東京都立府中療育センター
- 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック

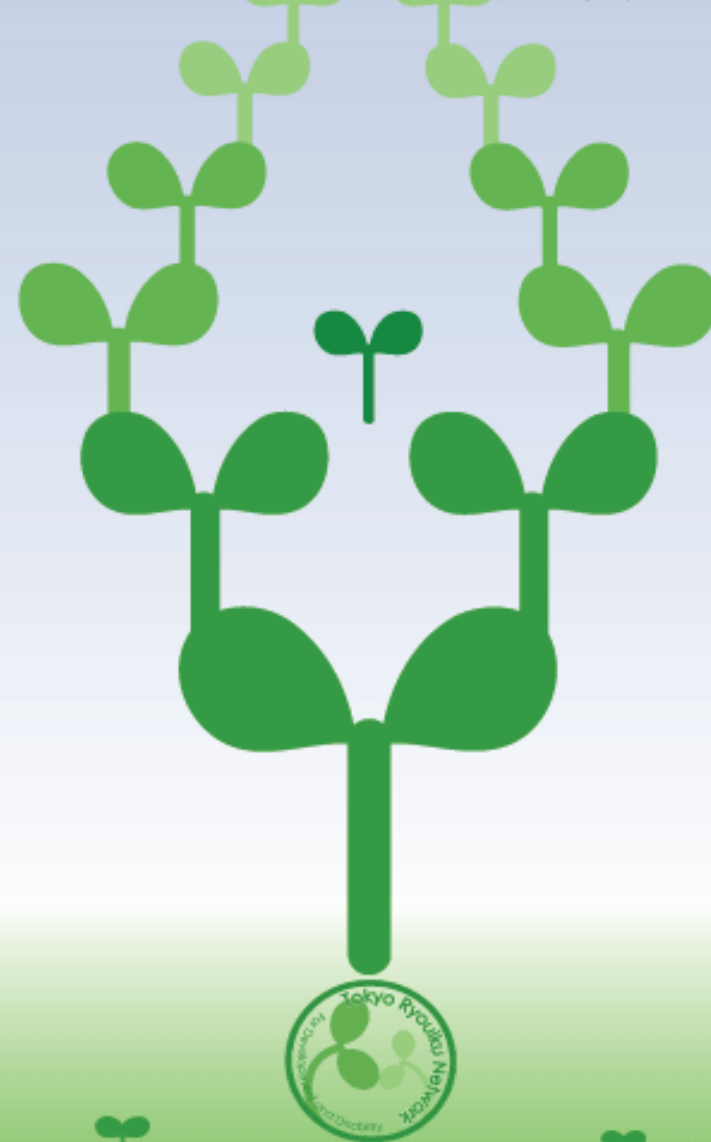


東京療育ネットワーク事務局

URL: <http://tokyo-ryouiku-network.jp/>

2016年8月1日 第1版発

お口から食べ始める前に —ご家庭でできる摂食訓練(1)—



東京療育ネットワーク

お口の働きとケアってなに？

お子さんお誕生おめでとうございます。このパンフレットでは、お子さんとの毎日の生活がご家族にとって安心してより楽しく過ごせるためのお手伝いとして、主に口とお食事についてお手伝いします。

まずは、お子さんが、食べ物や、おもちゃにご挨拶する、あるいはママやパパとの触れ合いややりとりで大活躍のお口に注目してみましょう。

体に物が触れる事に慣れましょう

口を含めて、体に何か触れると嫌がる（拒否）場面がよく見られます。心理的な要因も考えられますが、スキンシップや指しゃぶりなど口に物が入ってくる経験が少ないことからくる敏感さが大きな要因として考えられます。過敏性に対する対策を“脱感作”と言います。

次に、脱感作の具体的方法例を示しますが、受け入れるまでに時間のかかるお子さんも多いため、無理せず、気長に、繰り返し取り組んでみましょう。

脱感作のポイント

1. 過敏性の低い部分から始めましょう

2. しっかりと触りましょう

嫌がって動いても、すぐに離してしまうと結果的に擦ったようになってしまい、余計に嫌がる場合があります。押さえつけるのではなく、上手く動きに合わせて触った状態を保ち、体の動きが落ち着くのを待ちましょう（10秒以上）。

3. 嫌がりが少なくなってきたら

腕→肩→首→顔（頬→顎→下口唇→上口唇→鼻の下→人中）→口の中（下の奥の歯ぐき→上の奥の歯ぐき→上の前の歯ぐき）へ徐々に進めていきます。

嫌がりが強い場合は、順番にこだわることなく、嫌がりの少ない部分から繰り返し慣れていきましょう。

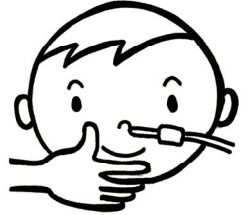


* 顔の脱感作 *

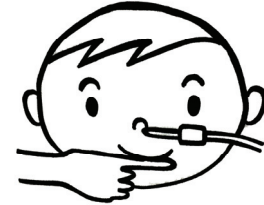
①頬



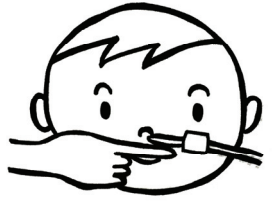
②顎



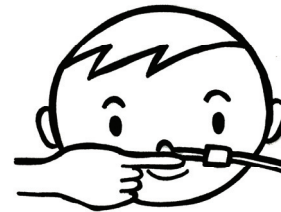
③下口唇



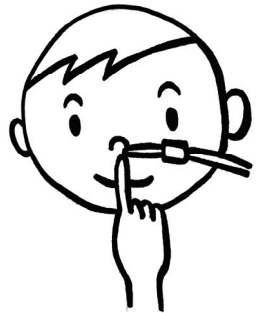
④上口唇



⑤鼻の下



⑥人中



1回に10回以上“触って→離して”を繰り返し、1日に2～3回が目安です。歌やリズムに合わせて、楽しい雰囲気で行いましょう。慣れに時間のかかるお子さんは、少ない回数から少しずつ増やしましょう。

困ったときは、担当の訪問看護師に相談しましょう。